

## 南海トラフ広域地震防災研究プロジェクトキックオフシンポジウムを開催

●減災連携研究センター

減災連携研究センターは、9月4日(水)、野依記念学術交流館において、南海トラフ広域地震防災研究プロジェクトキックオフシンポジウムを開催しました。

このプロジェクトは、南海トラフ巨大地震・津波による被害軽減を目的に、巨大津波発生メカニズムの解明、広域被害予測シミュレーション、復旧復興計画の検討等を行う



シンポジウムの様子

もので、本学が文部科学省の委託で、海洋研究開発機構、東京大学、京都大学、東北大学、防災科学技術研究所等と連携するプロジェクトです。

同シンポジウムでは、森澤敏哉文部科学省研究開発局地震・防災研究課長の開会あいさつの後、金田義行海洋研究開発機構プロジェクトリーダーよりプロジェクトの概要説明がありました。続いて藤山秀章内閣府参事官より、南海トラフ巨大地震の被害想定と今後の防災対策についての講演があり、内閣府から公表された南海トラフ巨大地震による被害想定手法の解説と、被害を減じるための防災・減災対策の重要性について述べました。パネルディスカッションでは、福和減災連携研究センター長をコーディネータとして、プロジェクト推進に向けた現状と課題について活発な意見交換が行われました。プロジェクトメンバーからは、テーマ毎の課題や今後の意気込みが語られ、アドバイザーとして迎えた藤山秀章内閣府参事官、北川 尚高知県理事、日角 真中部日本放送記者からは、南海トラフ地震の予測可能性の向上について期待するとの意見がありました。最後に小林壯行愛知県防災局長より閉会のあいさつがありました。

## 平成25年度防災・減災カレッジを開催

●減災連携研究センター

減災連携研究センターは、7月27日(土)、29日(月)、8月2日(金)、3日(土)、17日(土)、23日(金)、24日(土)、豊田講堂、環境総合館等において、防災人材育成研修「平成25年度防災・減災カレッジ」を開催しました。同研修は、行政、事業者団体、地域団体、ボランティア団体等で構成され、災害被害の軽減に向けて県民運動を推進している



会場の様子

「あいち防災協働社会推進協議会」が昨年度から始めたもので、本学のほか、愛知県、名古屋市などが共催しました。

7月27日(土)は、豊田講堂において「防災基礎研修」5科目の講義が行われ、今年度同カレッジに入学した多くの市民が参加しました。午前中は福和減災連携研究センター長から「防災概論」と題し、山岡耕春環境学研究科教授により「自然災害概論」と題した講演が行われ、その後「防災ボランティア論」、「防災行政概論」、「企業防災概論」の講義が行われ、受講者は熱心に聴講していました。同様の内容は三河地域でも講師と会場を変えて7月29日(月)にも行われました。

8月2日(金)以降は、「市民防災コース」、「企業防災コース」、「防災行政コース」、「地域防災コース」、「防災ボランティアコーディネーターコース」に分かれ、それぞれ講義を受講したほか、「啓発指導講座」、「メディア講座」、「救急救命講座」、「企業BCP講座」などもあわせて受講し、防災士の受験資格や「防災・減災カレッジ防災リーダー」などの資格を取得しました。

## 高大連携高校生防災教育推進事業「高校生防災セミナー」を開催

●減災連携研究センター

減災連携研究センターは、7月25日(木)、26日(金)、29日(月)、8月26日(月)の4日間、環境総合館レクチャールーム及びES総合館ESホールにおいて、本学、愛知県防災局、愛知県教育委員会主催により高大連携高校生防災教育推進事業「高校生防災セミナー」を開催しました。

同セミナーは、南海トラフ巨大地震が懸念される愛知県



セミナーの様子

において、学校や地域の防災力向上に貢献できる防災リーダーの育成を目的として、平成22年度から毎年開催しています。自然災害に対する知識や実践的な災害対応に関する講座を、2年に渡って受講します。今年度は、県内の高等学校30校から各校生徒4名、教員1名の合計150名が参加しました。

同セミナーでは、本学教員やNPO職員、県職員等の専門家による講義と演習が行われました。講義はプレート境界及び活断層での地震発生メカニズム、地震に伴う液状化や斜面崩壊のメカニズム、防災ボランティアの役割等についての講義があり、演習では、巨大災害発生を想定し、地図への書き込みを通して災害対応を考える災害図上訓練、避難所運営ゲーム「HUG」を通じた避難所の運営訓練、ペーパークラフト教材「紙ぶるる」を用いた耐震性能実験等の演習を行いました。

8月26日(月)は、津波被害とその対策について学び、その上で地域防災に向けた活動計画について発表を行いました。また、昨年度からの受講生による防災活動に関する経過発表も行われました。

## 展示会「珍品・逸品・新収品」を開催

●附属図書館医学部分館

附属図書館医学部分館は、5月21日(火)から9月13日(金)までの間、医学部分館において、展示会「珍品・逸品・新収品－医学部史料室の最近の収蔵品から－」を開催しました。

展示会では、17から19世紀の日本、中国、西洋の産科学、病理学をはじめとする貴重な古医書、明治期の公立医学校(本学の前身校)校長の著書や講義録、昭和初期に開発され



展示会の様子

た国産油侵系顕微鏡の名機、在学中に二・二六事件が起こった激動の時代の名古屋医科大学(本学の前身校)の卒業記念アルバム、県立愛知医科大学(本学の前身校)教授で脳神経外科学のパイオニアである齋藤 真氏の手術図で知られる所 輝夫氏(本学卒業生)の画集、戦前・戦中の個人的な図柄が楽しい薬瓶の封緘シールのコレクション、日本医学会総会が初めて名古屋で開催された時の七宝の会員章、昭和45年前後の本学医学部をはじめ、全国の大学の民主化を求める動きを、手書き文書、印刷資料、新聞・雑誌記事などで丹念にたどった民主化史料集など、同館内にある医学部史料室に最近寄贈された史料の中から、珍品、逸品の数々を展示し、多くの来館者の関心を集めていました。

寄贈品には、林 直助県立愛知医科大学教授によるツツガムシ病発生地である新潟県での研究の労苦と功績を描いた記録映画と、テレビで話題の新島八重氏や日本初の女医である荻野吟子氏らの生涯を描いたDVDもあり、館内で視聴された方々から好評を得ました。

また、展示品を契機として医学部史料室の見学を希望される方も多く、さらに大きな知的探究心に応えることができました。